

係員時代に習得した 業務スキルを、少人数の 地方事務所で活かす



人事院
総務課秘書

山崎 いずみ

Profile

- 平成22年・人事院入庁(II種(行政区分)採用) 人材局企画課総務班係員 庶務業務
- 平成23年・会計課経理班支出係係員 支出・監査関係業務
- 平成25年・関東事務局第一課給与係係員 給与関係法令の実施に関する業務
- 平成27年・給与局給与第一課調査第二班係員 国家公務員給与等実態調査に関する業務

転勤

- 平成29年・沖縄事務所総務課主査 庶務・採用業務、研修・勤務時間関係法令の実施に関する業務

- 平成31年・総務課秘書
～現在 秘書業務



国家公務員を 縁の下から支える

私は、まず初めに、国家公務員の採用試験、任用制度全般の企画・立案、人材確保活動の計画・立案等を担当する人材局企画課に配属されました。人材局に所属する職員それぞれが、円滑に業務を遂行できるように支える庶務業務に携わることで、人材局の業務を俯瞰的に見ることができました。

採用6年目に、給与局給与第一課に異動となり、主に国家公務員の給与等の実態を調査する業務を担当しました。この調査結果は、社会の変化に応じた適正な公務員給与を実現するために必要な基礎資料となります。給与という職員の日々の生活に直結する極めて重要な勤務条件の1つに影響を与える業務に携わることができ、大変やりがいを感じました。

本院や関東事務局での勤務を通じて、国の重要施策を担う国家公務員がいまいきと働くことのできる環境を支えていくのではないかと考えるようになり、人事行政にますます魅力を感じています。

今までにない物事の 気づきや、新しい知識を 得られた沖縄転勤

- 本院で得た業務スキルを地方で活かす
人事院では、役職を問わず、多様な経験

を積むために転勤のタイミングが何回かあります。私は採用8年目に沖縄へ転勤することになりました。私は、転勤するならば沖縄に、との希望を出していましたが、東京以外で生活をしたことがなかったこともあり、実際に人事担当から沖縄事務所への異動の打診や内示を受けた際には、不安と期待とが入り混じる複雑な心境でした。しかしながら、「住めば都」とはまさにそのとおりで、実際に沖縄で2年間ほど勤務していくうちに沖縄での生活に愛着が湧き、今では、沖縄を「第二の故郷」のように感じています。

当初は、那覇市内の宿舎への入居を希望していましたが、引っ越しを円滑に進めるために宿舎の希望を取り下げ、民間のアパートを探すことになりました。幸いにも大学の友人が那覇市内で就職していたため、居住地探しに協力してもらい、無事に民間のアパートに入居することができました。宿舎の入居の可否決定がもう少し迅速であったのなら、引っ越しの計画もより立てやすくなったのかもしれませんが。

沖縄勤務1年目は、主に庶務や採用業務を担当しました。本院でも経験していた業務とはいえ、主査として、部下を指導しながら業務に携わったことは、自分自身を成長させる良い機会になりました。

また、人事院には、沖縄を含め9つの地方事務局(所)がありますが、同様の業務を行って

いる職員との横のつながりを得たことで、アイデアの発想の幅が広がりました。特に、当初の事業計画では予定していなかった性的マイノリティーの特別講演を実施することとなった際には、事務所内の職員や他事務局の職員の知見をお借りすることで、地域に合った講演を行うことができ、大盛況のうちに終了することができました。

● 地域の実情を知り、視野を広げる

2年目は、勤務時間や休暇制度等の調査や監査、研修を企画・実施する業務を担当し、石垣島や宮古島等の離島へも出張しました。実際にその地で生活し、働いている職員の実情をこの目で見て、生の声を聞くことで、観光地としてだけでなく、1つの生活地としての側面も窺い知ることができ、新たな視点や着眼点を得ることができました。こういったものは、なかなか机上では生まれにくいものだと思います。異動により、地方で生活し、それぞれの地域の特性や実情を知り、それを自身の血肉に変える機会をいただいたことに感謝しています。



恒例のビーチパーティにて沖縄事務所の皆さんと



休日には友人と沖縄観光をすることも。
自然が多く残るガンガラーの谷へ

研修業務で強く印象に残っているのは、台風が直撃したことによって、カリキュラムの一部を中止し、研修期間を短縮したことです。研修期間中に台風が沖縄本島に直撃する可能性が極めて高いという予報が出たので、関係部署と連携しながら、予め考えられる対応方法を共有しました。その結果、受講生が大きく混乱することもなく、無事に研修を終えることができました。沖縄では、台風が最も身近な自然災害だと認識されているからこそ、迅速な対応につながったのだと思います。この出来事によって、リスク管理の重要性を改めて認識しました。

沖縄で触れた優しさを 忘れず、新たなステージへ

沖縄事務所は少人数でしたが、皆で協力して業務を進める環境が整っており、その思いやりの心や寛容さに随所で救われました。産休に入る職員の業務の一部を全員で分担したり、テレワークやフレックス等を活用して柔軟な働き方を行っている職員がいたり等、皆で一丸となって仕事と家庭生活の両立に取り組んでいたように感じています。事務所恒例イベントのビーチパーティーで、職員のご家族も交えて楽しい時間を過ごしたことは、今でも良い思い出になっています。

プライベートにおいても、仕事終わりや休日には、飲食店や観光地を巡り、現地で多くの知り合いや友人と出会うことができました。新たな交友関係を築くことができるのも、転勤で得られる財産なのかもしれません。ゆったりとした時間の中で、沖縄の豊かな自然とうちな一んちゅ(沖縄の人)の優しさに触れ、心が豊かになったように感じています。

現在は、事務総長の秘書をしています。これまでとは違った新たなステージで、やりがいを感じる毎日です。なにより、幹部のお考えを直接お伺いするような機会は滅多にないことなので、大変貴重な経験をさせていただき、ありがたく感じています。新しい環境では不安がつきものですが、新たな発見や気づきがあるとポジティブに捉えて、今後も新しいことに積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

1日のタイムスケジュール例(転勤時)

- 6:00 起床
- 8:30 登庁、メールチェック
- 8:45 課内ミーティング
- 12:00 昼食
- 14:00 外部講師との打合せ
- 16:00 照会対応
- 17:15 退庁
- 19:00 県内食材を扱うイタリアンで食事
- 21:00 帰宅
- 23:00 就寝

女性職員への メッセージ

仕事やプライベートにおける人々との新しい出会いが自らを成長させてくれました。異動先での環境の変化に慣れるまで、多少時間はかかるかもしれませんが、一度は転勤して活躍の場を広げてみるのも良いと思います。

人事課からの メッセージ

Q 人事院では
転勤はありますか？

A 人事院本院で採用された職員は、本院の各部署を中心としたキャリアパスを重ねていくこととなりますが、地方事務局に転勤する機会もあります。具体的には、本院を起点として、地方事務局で2~3年勤務した後は再び本院に戻ってくる異動が一般的です。

Q 転勤の意義についてどのように
考えていますか。

A 管轄区域の「ミニ人事院」である地方事務局で、採用試験や研修の実施、各種人事制度の運用等の実施部門としての業務に幅広く携わることは、人事院全体の業務を把握し、その役割を理解する上で有効であり、必ず将来役に立つ経験になるでしょう。

Q 転勤のタイミングについて、どのよ
うな配慮・工夫を行っていますか。

A 地方事務局での経験はキャリアパスの一環としてとても有意義であることから、出産・子育て等のライフイベントに重ならないよう配慮して転勤の機会を付与するなど、職員の事情に応じた柔軟に対応しています。

